

# 明治ビジネスチャレンジを通じた離婚支援サービスの社会実装 —離婚当事者アンケート、アプリ試作、初期ユーザー検証に基づく EmoLawConnectの検討—

大塩 浩平<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 明治大学大学院情報コミュニケーション研究科博士後期課程修了 博士（情報コミュニケーション学）

\* Corresponding Author: oshio.k.contact22@gmail.com

## 概要

本稿は、JURIX 2025で発表したEmoLawConnectを、明治ビジネスチャレンジを通じて社会実装へ展開した実践を報告する。離婚成立経験者200名へのアンケートにより、離婚当事者が抱える手続理解の不足、相談先選択の難しさ、費用・心理面の不安を把握した。そのうえで、依頼人側・専門家側MVPを試作し、初期ユーザー検証を行った。本稿では、離婚支援を専門家検索にとどめず、相談前の不安、手順理解、推薦理由、予約、専門家側の初期対応を接続するサービスとして再設計した過程を示す。

## 1 はじめに

離婚に伴う問題は、養育費、財産分与、親権、面会交流、慰謝料等の法的論点に加え、生活再建、家族関係への影響、心理的負担への対応が重なりやすい。一方、当事者が最初に接する相談・情報提供の導線は、検索型ポータル、公的窓口、法律相談、AI相談サービス等に分散しており、何から始め、誰に相談すべきかが分かりにくい。こうした状況は、相談先へ到達する前の迷いや不安にとどまらず、相談内容の整理、専門家の選択、予約、相談、専門家側の案件把握や日程調整に至るまで、離婚プロセス全体の負荷として現れる。

筆者はJURIX 2025において、家事・離婚領域の専門家マッチングシステムEmoLawConnectを発表した（Oshio, 2025）。同研究では、法的ニーズや取扱分野に加え、感情的選好や価値観の適合を組み合わせ、相談者に適した専門家候補を提示するAIマッチングシステムを提案した。一方で、同研究の主眼はマッチング手法とシステム構成の提案にあり、相談前後の利用導線、予約・相談への接続、専門家側の案件対応を含むサービス運用設計までは十分に扱っていなかった。

そこで、明治ビジネスチャレンジへの参加およびファイナリスト選出を契機として、EmoLawConnectを実際の離婚支援サービスとして再構成し、社会実装に向けた利用導線と運用要件を検討した（明治大学, 2025）。本稿では、離婚当事者アンケート、依頼人側・専門家側MVPの試作、初期ユーザー検証を通じて、相談前の自己整理、手順理解、推薦理由の可視化、予約・相談への接続、専門家側の初期対応支援を、離婚支援サービスの社会実装に必要な設計要件として具体化する。

## 2 実践内容

### 2.1 取り組み概要

本実践は、①離婚成立経験者アンケートの分析、②その結果を踏まえたEmoLawConnectの再構成、③依頼人側・専門家側アプリの試作、④初期ユーザー検証、⑤検証結果に基づく社会実装要件の抽出、の順に進めた。明治ビジネスチャレンジへの参加を通じて、EmoLawConnectを単なる研究成果として提示するのではなく、顧客課題、提供価値、利用形態および運用体制を具体化し、実際のサービスへ接続することを目指した。

サービス設計では、依頼人側の利用体験だけでなく、相談情報の事前把握、初期対応、日程調整等を担う専門家側の運用も対象とした。以下では、依頼人側を離婚・家事問題について相談先を探す当事者側、弁護士を中心に、司法書士、行政書士、心理専門職、社会福祉職、ファイナンシャルプランナー等の離婚・家事相談に関与しうる専門職を専門家側として扱う。現行MVPでは、依頼人側の推薦対象データは弁護士を中心に構成しているが、専門家側アプリでは複数職種への展開を想定している。

既存サービスについては、弁護士検索ポータル、手続支援・マッチング型サービス、AI相談・情報整理型サービスの三類型に整理した。参照対象は、弁護士ドットコム、ベンナビ離婚、離婚弁護士相談広場、離婚のカタチ、Re:con、リコ活、Teuchi for 離婚、リーガルワン、raeru、離コンパス、ベンナビAI法律チャットボットである（弁護士ドットコム株式会社, 2026；株式会社アシロ, 2026a；株式会社Agoora, 2026；株式会社朝日新聞社, 2026；株式会社WonderSpace, 2026；株式会社リライフテクノロジー, 2026；ミドルマン株式会社, 2026；株式会社ebookcloud, 2026；

GUGEN Software株式会社，2026；日本加除出版株式会社，2026；株式会社アシロ，2026b）。弁護士検索ポータルは専門家を探す導線に，手続支援・マッチング型サービスは条件整理や相談導線に，AI相談型サービスは相談前の悩み整理に強みを持つ。一方で，これらの機能は分散しており，相談前の自己整理，心理的適合を踏まえた専門家候補の提示，推薦理由の可視化，予約・メッセージ，専門家側の初期対応を一体の導線として接続する点には限界がある。

これに対して，EmoLawConnectでは，相談前の自己整理，感情・性格傾向を踏まえた専門家候補の提示，推薦理由の可視化，予約・メッセージ導線，専門家側の初期対応・日程調整支援を一連のサービス導線として接続する点に特徴を置いた。なお，以上の整理は公開情報に基づき主要機能を一般化したものであり，個別サービスの全機能を網羅的に比較するものではない。表1に，アクターと支援段階の観点から，既存サービス類型とEmoLawConnectの支援範囲の違いを示す。

表1 アクター・支援段階別にみた既存サービス類型とEmoLawConnectの支援範囲

| アクター・段階   | 既存サービス類型の主な支援範囲   | EmoLawConnectの支援範囲      |
|-----------|-------------------|-------------------------|
| 依頼人／相談前   | 悩み整理，情報提供，手続理解    | 状況入力，感情・性格診断，自己整理       |
| 依頼人／専門家選択 | 地域，取扱分野，相談内容による検索 | 争点，希望条件，感情・性格傾向に基づく推薦   |
| 依頼人／予約・相談 | 問い合わせ，外部予約導線      | 希望日時，予約申込み，メッセージ接続      |
| 専門家／登録・受付 | プロフィール掲載，問い合わせ受付  | 職種，取扱分野，地域，価格帯，支援スタイル登録 |
| 専門家／初期対応  | 個別返信，日程調整         | 相談内容，緊急度，希望条件の把握と対応履歴管理 |

2.2 至った背景・経緯

離婚支援サービスとしての要件を検討するにあたり，まず，離婚当事者が相談前にどのような障壁を感じ，どのような支援を必要としていたのかを把握する必要があった。そこで，本実践では，クラウドワークスを通じて募集した離婚成立経験者200名を対象にWebアンケートを実施し，その結果を基礎資料として用いた。

アンケートでは，基本属性に加え，離婚成立までの期間，離婚手続の種類，弁護士利用の有無，家庭裁判所手続の利用，利用した専門家・支援先，離婚に向けて動き始めた段階で必要だった支援，不要だった支

援，費用・時間・心理面の障壁，専門家・支援先への満足度，心理的相性を考慮した推薦機能への利用意向，推薦結果に必要な説明，支払意思額，自由記述を尋ねた。本稿では，社会実装に関わる設計要件を抽出するため，設問ごとの単純集計に加え，初期ターゲット候補として想定した20代女性を対象とする属性別集計を行った。回答者の基本属性を表2に示す。

表2 アンケート回答者の基本属性

| 属性          | 区分        | 人数（割合）     |
|-------------|-----------|------------|
| 性別          | 女性        | 123（61.5%） |
|             | 男性        | 76（38.0%）  |
|             | 回答しない     | 1（0.5%）    |
| 離婚成立時の年齢    | 20代       | 59（29.5%）  |
|             | 30代       | 87（43.5%）  |
|             | 40代       | 42（21.0%）  |
|             | 50代以上     | 11（5.5%）   |
|             | 回答しない     | 1（0.5%）    |
| 離婚成立からの経過期間 | 1年未満      | 23（11.5%）  |
|             | 1年以上3年未満  | 62（31.0%）  |
|             | 3年以上5年未満  | 43（21.5%）  |
|             | 5年以上10年未満 | 37（18.5%）  |
|             | 10年以上     | 35（17.5%）  |

表2のとおり，回答者は女性が123名（61.5%）であり，離婚成立時の年齢は20代と30代で146名（73.0%）を占めた。そのため，本調査結果は，若年から中年層，特に女性の離婚経験に関する支援ニーズを相対的に強く反映している可能性がある。一方で，離婚成立からの経過期間は1年未満から10年以上まで分散しており，離婚直後の記憶だけでなく，一定期間を経た後の振り返りも含まれている。

回答者全体では，正社員は122名（61.0%），年収400万円未満は124名（62.0%），離婚時に子どもがいた者は111名（55.5%），協議離婚は145名（72.5%）であった。また，離婚の検討開始から1年未満で成立した者は159名（79.5%）であった。

相談開始時の障壁については，「離婚に向けて動き始めた頃，どこに相談すればよいか分からず，動き出しにくかったと思いますか。」という設問に対して，138名（69.0%）が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。費用が気になって相談や手続きを進めにくかった者は119名（59.5%），相談先の質が心配で利用しにくかった者は99名（49.5%）であった。また，心理的な相性も考慮して専門家・支援先を推薦

する仕組みがあれば利用したと思う者は152名（76.0%）であった。支払意思額については、状況に合う専門家を推薦してもらえる場合、1,001円以上を支払ってもよいと回答した者は153名（76.5%）、3,001円以上でも110名（55.0%）であった。また、推薦だけでなく相談予約までスムーズにできる場合には、3,001円以上を支払ってもよいと回答した者が140名（70.0%）、5,001円以上でも107名（53.5%）であった。

必要だった支援については、「離婚に向けて最初に具体的に動き始めた頃に、もっと必要だった支援について、該当するものを最大3つまで選択してください。」という複数回答形式で尋ねた。選択数が上限を超えた12名を当該設問の集計から除外した結果、有効回答188名のうち、「離婚手順のガイドやサポート」を92名（48.9%）、「お金に関する論点の整理」を69名（36.7%）、「離婚手続の流れの図解」を55名（29.3%）が選択した。上限を超えた12名を含む全200名で集計した場合も、上位3項目の順位は変わらなかった。

さらに、初期ターゲット候補の具体像を把握するため、20代女性52名について補足的に集計した。弁護士をまったく利用していない者は31名（59.6%）、相談のみにとどまった者は14名（26.9%）、自分側で弁護士に依頼していた者は、双方が依頼していた場合を含めて6名（11.5%）であった。必要だった支援に関する設問では、選択数が上限を超えた3名を除く49名のうち、「離婚手順のガイドやサポート」を25名（51.0%）が選択した。

以上の結果から、本実践では、相談先の選択以前に、離婚手続の全体像、費用の見通し、相談先の質や相性に関する不安が利用開始の障壁になっていると整理した。そのため、入口段階での手順ガイド、費用情報の提示、推薦理由の可視化、心理的相性を踏まえた専門家候補の提示、および初回利用者向けの簡潔な導線設計を、EmoLawConnectの社会実装における主要要件として位置づけた。

## 2.3 特徴・工夫した点

表1で示したとおり、EmoLawConnectの特徴は、既存サービスの機能を単に置き換える点ではなく、相談前の自己整理、心理的適合を含む候補提示、予約・メッセージ、専門家側の案件対応を一連の導線として接続する点にある。離婚当事者が相談先を探す場面では、法的論点だけでなく、不安、緊急度、疲労感、相談相手との相性に関する不安も意思決定に影響する。そのため、本実践では、専門家検索の前段階にある情報整理と心理的負担の軽減を、サービス設計上の重要な要素として扱った。

依頼人側では、緊急度、ストレス、疲労、不安傾向、回避傾向を取得し、争点タグ、段階、希望地域、予算、オンライン希望、夜間希望等の条件と合わせて候補提示に用いる構成とした。推薦画面では、上位候補を提示するだけでなく、なぜその専門家が候補とし

て示されたのかを依頼人が理解できるよう、推薦理由を表示する設計とした。これにより、専門家を単に一覧から選ぶのではなく、自分の状況や希望条件との関係を確認しながら相談先を選択できるようにした。

専門家側については、プロフィール登録、申込み一覧、案件詳細、メッセージ、予定、設定を設け、相談リクエストを把握し、対応開始、見送り、日程調整、日程確定、対応終了までを管理できる構成とした。特に、緊急度、ストレス、疲労、争点タグ、予算、希望条件を一覧・詳細画面で確認できるようにすることで、初回対応前に相談者の状態を把握しやすくした。また、リスクフラグ、利益相反チェック、公的窓口案内、見送り理由の記録、操作ログを設けることで、家事事件領域で必要となる安全性と説明可能性にも配慮した。

本実践で想定するAI活用・自動処理の範囲は、依頼人が入力した相談内容、感情状態、希望条件を整理し、専門家の取扱領域、対応条件、支援スタイルとの適合をもとに、候補提示と推薦理由の表示を支援する部分である。また、相談内容の要約については、現行MVPでは専門家に共有するための要約下書きとして位置づけ、原文も併せて保持する設計とした。一方で、AIが個別事案について法的判断を行ったり、事件の見通しを断定したり、法律相談を代替したりする設計は採らない。法的判断や最終的な助言は専門家が担い、AIは相談前の情報整理、感情整理、推薦理由の提示、予約・相談導線の支援に限定する。

## 2.4 詳細内容

画面構成を把握しやすいよう、EmoLawConnectの主要画面を依頼人側・専門家側に分け、入力・表示項目として整理した。依頼人側では、相談前の自己整理、申込み、推薦、予約・メッセージ接続を扱い、専門家側では、プロフィール登録、申込み把握、初期対応、日程調整、対応履歴管理を扱う。表3に、EmoLawConnectにおける主要画面と入力・表示項目を示す。

表3 主要画面と入力・表示項目

| 利用者 | 画面・機能    | 主な入力・表示項目                                       |
|-----|----------|-------------------------------------------------|
| 依頼人 | 感情・性格診断  | 緊急度、ストレス、疲労、不安傾向、回避傾向、診断完了状態、未診断時の誘導            |
| 依頼人 | 相談申込み    | 争点タグ、段階、希望地域、予算、相談内容、オンライン・夜間希望、希望日時、要約下書き、原文共有 |
| 依頼人 | 申込み一覧・詳細 | ステータス、作成日、争点タグ、要約、最新メッセージ、チャット、申込み内容の確認         |

|            |              |                                       |
|------------|--------------|---------------------------------------|
| 依頼人        | おすすめ専門家      | 上位候補，推薦理由，取扱領域，詳細確認，予約，未診断時の注意表示      |
| <b>利用者</b> | <b>画面・機能</b> | <b>主な入力・表示項目</b>                      |
| 専門家        | プロフィール登録     | 表示名，職種，取扱分野，対応エリア，対応条件，価格帯，対応スタイル診断   |
| 専門家        | 申込み一覧・案件詳細   | 匿名ID，争点タグ，段階，地域，予算，緊急度，ストレス，疲労，リスクフラグ |
| 専門家        | メッセージ・日程対応   | 対応開始，見送り，日程調整，日程確定，テンプレート送信，操作ログ      |
| 専門家        | 予定・設定        | 確定予定，重複予約表示，プロフィール編集，通知設定，データ削除       |

依頼人側画面は，感情・性格診断，相談申込み，申込み一覧・詳細，おすすめ専門家を中心に構成した（図1）．感情・性格診断では，緊急度，ストレス，疲労を1～5段階で入力し，不安傾向4問，回避傾向4問から性格傾向を把握する．相談申込みでは，争点タグ，段階，希望地域，予算，相談内容原文，オンライン希望，夜間希望，希望日時を入力する．また，相談内容については要約下書きを生成し，原文と併せて専門家に共有できる構成とした．おすすめ専門家画面では，最新の申込み内容と性格診断結果に基づいて候補を採点し，上位候補，推薦理由，取扱領域，詳細確認，予約導線を表示する．

専門家側画面は，「専門家プロフィール登録」「相談申込み一覧」「日程確定・メッセージ対応」の三画面で構成した（図2）．プロフィール登録画面では，職種，得意分野，対応エリア，オンライン・夜間対応等を登録し，推薦条件の基礎データを整備する．相談申込み一覧画面では，争点，段階，予算，緊急度，ストレス等を一覧的に把握できるようにし，対応の優先順位付けを支援した．日程確定・メッセージ対応画面では，希望日時の確認と定型メッセージ送信を通じて，初回対応の負荷軽減を図った．

このように，本実践では，研究論文で提示したマッチングの考え方を，単なる推薦エンジンとしてではなく，「相談前の自己整理→推薦→予約」という依頼人側の連続した体験へ再構成した．また，専門家側についても，依頼人からの相談申込みを待つだけの受動的な掲載面ではなく，「登録→申込み把握→初期対応→日程確定」までを含む運用インターフェースとして具体化した点に意義がある．

さらに，本実践では，AIが個別事案に対する法的判断を代替する設計は採らず，その役割を情報整理，感情整理，推薦理由の提示，予約導線の支援に限定した．法的判断や最終助言は専門家が担う構成を明確にした点も，社会実装上の重要な条件であった．

EmoLawConnect
（テスト版）

相談を申し込む

性格診断：未実施 →

入力内容をもとに専門家とマッチングします

争点タグ\*（複数可）

離婚

別居

親権

養育費

面会交流

財産分与

婚姻費用

DV・モラハラ

不貞

調停・裁判

公正証書

年金分割

現在の段階\*

検討段階

協議中

調停中

離婚成立後

希望地域（東京）\*（複数可）

☒ 都心（千代田・中央・港）
☐ 城西（新宿・渋谷・中野・杉並・世田谷など）
☐ 城北（豊島・板橋・北・練馬など）
☐ 城东（台東・墨田・江東・葛飾・江戸川など）
☐ 城南（品川・大田・目黒など）
☐ 多摩（市部）
☐ 島しょ

☒ オンライン希望
☐ 夜間対応希望

図1 依頼人側アプリ画面：相談申込み

EmoLawConnect
（テスト版）

相談申込み

未対応 8 対応中 2 日程確定 0

フィルター ▼

USER-C3D4 緊急 DV

未対応

別居 DV・モラハラ

段階：検討段階

対面エリア：都心（千代田・中央・港）（居住地：近畿）

オンライン希望 / 夜間希望 / 予算：低

緊急度：高 / ストレス：5/5 / 疲労：5/5

他の対応者：2名

辞退

対応開始

USER-A1B2 緊急

未対応

離婚 親権 養育費

段階：協議中

対面エリア：城西（新宿・渋谷・中野・杉並・世田谷など）（居住地：関東）

オンライン希望 / 予算：中

緊急度：高 / ストレス：5/5 / 疲労：4/5

対応者なし

申込み

メッセージ

予定

設定

図2 専門家側アプリ画面：相談申込み一覧画面

### 3 事前に期待した効果

本実践で事前に期待した効果は、主に三点である。まず、離婚当事者が相談前に抱える不安を軽減し、支援へ接続する最初の一步を明確にすることである。アンケート結果では、相談先が分からないことや費用への不安が大きな障壁であったため、手順ガイド、費用情報、予約導線の整理は、それ自体が重要な支援価値になると考えた。

次に、専門分野だけでなく、心理的相性や対応姿勢も含めて、専門家選択の納得感を高めることである。離婚紛争では、相手方との力関係やストレス状態によって、求める説明スタイルや相談相手との距離感が異なり得る。そのため、単なる条件一致だけでなく、相談しやすさや対応スタイルを推薦要素として扱うことで、専門家選択の納得感と相談開始のしやすさを高めることを目指した。

さらに、JURIX 2025論文で示したマッチングの考え方を、依頼人側・専門家側の双方が利用できるMVPとして具体化し、研究上の新規性を実際のサービス導線へ接続することを目指した。ビジネスチャレンジという実践の場を通じて、相談前の自己整理、推薦、予約、専門家側の初期対応を一連のプロダクト体験として構成できるかを検討した。

### 4 実際に得られた効果／結果

2026年3月4日に明治大学において、20代女性1名を対象に、試作した依頼人側・専門家側画面を用いた初期ユーザー検証を実施した。検証では、画面遷移の分かりやすさ、不安軽減への寄与、予約行動への接続可能性、費用・予約情報の必要性等について意見を収集した。

検証では、「予約をできるだけ早く取りたい」「初回相談が無料か、着手金の情報が欲しい」「弁護士の姿勢が戦略的か共感的か、倫理面も含めて知りたい」「手続全体像とニーズ分析がほしい」といった意見が得られた。また、「正確な通話文字起こし代行が必要」「発言から書類作成を補助してほしい」「弁護士タイプの推定があるとよい」といった要望も示された。これらの意見は、専門家推薦そのものだけでなく、推薦に至る前の説明、推薦後に行動へ移るための費用・予約情報、および相談内容を専門家に伝えるための補助機能が重視される可能性を示している。

依頼人側のUIについては、争点と状況を簡潔に入力し、気持ちの状態を可視化したうえで、専門家候補と推薦理由へ進む流れは理解しやすいとの反応が得られた。一方で、推薦結果だけでは安心感に直結せず、費用情報、予約可能性、専門家の対応スタイル、地域・時間帯条件などが併せて示される必要があることも示唆された。

専門家側画面については、相談情報を一覧的に把握し、テンプレートを用いて返信や日程調整を行う構成が、初期対応の負荷を下げる要素になり得ると整理した。家事事件では、初回連絡の段階で相談内容の整理

に時間を要することが多いため、依頼人側から取得した争点、段階、緊急度、ストレス、疲労、希望条件等を専門家側で確認できることには実務上の意義があると考えられる。

以上より、初期ユーザー検証を通じて、EmoLawConnectの社会実装においては、依頼人側の安心感と専門家側の運用効率を同時に成立させる設計が重要であることが示唆された。特に、手順理解、費用・予約情報、推薦理由、専門家の対応スタイル、および相談内容の伝達補助を一体として設計することが、単なる専門家検索との差分になり得ると考えられる。

### 5 ディスカッション

本実践から得られた中心的な示唆は、離婚支援サービスの価値が、専門家検索それ自体ではなく、不安の大きい当事者が動き出せる状態をつくることにあるという点である。研究としてのEmoLawConnectは、感情状態や専門家との適合に基づくマッチングに新規性を置いていた。しかし、社会実装の文脈では、手順理解、費用の見通し、予約のしやすさ、専門家の対応姿勢の理解といった、推薦前後の支援も重要な設計要素になることが示唆された。

このことは、研究成果をサービスとして展開する際には、アルゴリズムやモデルの新規性だけでなく、依頼人が実際に行動へ移るための安心材料を設計する必要があることを示している。離婚当事者は、専門家の能力だけでなく、自分の状況を理解してもらえるか、費用が分かるか、予約まで進めるかといった点も重視する。そのため、推薦理由の提示、費用・予約情報、手続全体像の提示は、単なる補助機能ではなく、支援利用を可能にする重要な要素である。

また、社会実装を継続可能なものにするには、依頼人側の利便性だけでなく、専門家側にとって参加し続けられる運用条件を整える必要がある。相談情報の事前整理、初回返信のテンプレート化、日程調整負荷の軽減、対応履歴の記録等は、専門家側の参加コストを下げる要素である。離婚支援サービスは、依頼人側の安心感と専門家側の運用効率の双方が成立して初めて継続可能になる。

提供形態についても、BtoCに限定する必要はない。離婚前後の不安軽減、情報整理、適切な専門家や支援窓口への接続という価値は、個人による直接利用に加え、企業の福利厚生、自治体相談窓口、公的・準公的支援導線との連携を通じたBtoBまたはBtoBtoCの形態でも成立しうる。また、離婚支援は弁護士のみで完結するものではなく、将来的にはファイナンシャルプランナー、心理専門職、社会福祉職等との連携を通じて、法的争点と生活再建支援を接続する余地がある。

他方で、本実践には限界もある。初期ユーザー検証は探索的検証にとどまり、継続利用、予約完了率、相談実施率等の行動指標までは検証できていない。また、オンラインアンケート回答者は女性および20代・

30代が相対的に多く、若年層、特に女性の支援ニーズが強く反映されている可能性がある。さらに、現行MVPはモック実装であり、依頼人側と専門家側のデータ同期、実認証、サーバAPI、個人情報保護、専門家本人確認、非弁行為との境界整理は本番化に向けた課題として残る。

以上の限界はあるものの、本実践は、アンケート分析、画面試作、初期ユーザー検証を接続し、研究成果を社会実装へ移す際に必要となる設計条件を具体化した点に意義がある。特に、相談前の自己整理、感情・性格傾向を踏まえた推薦、推薦理由の提示、予約・メッセージ導線、専門家側の案件対応支援を一体として設計することは、離婚支援サービスにおける今後の実装上の基盤になり得る。

## 6 おわりに

本稿では、明治ビジネスチャレンジを契機として、JURIX 2025で公表したEmoLawConnectを、離婚支援サービスとして社会実装へ展開する実践を報告した。離婚成立経験者200名を対象とするアンケートからは、手順理解、費用情報、相談先選択への不安が、支援利用前の主要な課題であることが示された。これを踏まえ、本実践では、依頼人側と専門家側の双方を想定したMVPを試作し、相談前の自己整理、感情・性格傾向を踏まえた推薦、推薦理由の提示、予約・メッセージ導線、専門家側の案件対応支援を一連のサービスとして設計した。

初期ユーザー検証からは、専門家推薦そのものに加えて、費用・予約情報、専門家の対応スタイル、手続全体像、相談内容の伝達補助が重要であることが示唆された。この結果は、離婚支援サービスの価値が、単に専門家を検索できることではなく、不安の大きい当事者が支援利用に向けて動き出せる状態をつくる点にあることを示している。

今後は、対象者数を増やしたユーザー検証、継続利用や予約完了率等の行動指標の確認、専門家ネットワークの拡充、依頼人側と専門家側を接続するバックエンドの実装、プライバシー保護および法的リスク管理を組み込んだ運用設計を進める必要がある。本実践は、研究成果を概念提案にとどめず、依頼人側の利用体験と専門家側の運用の双方を含むサービス設計へ接続し、離婚支援サービスの社会実装に必要な条件を具体化した点に意義がある。

## 7 参考文献

- GUGEN Software株式会社 (2026). raeru. <https://raeru.jp/>, last accessed on June 21, 2026.
- Oshio, K. (2025). EmoLawConnect: An AI-Powered Matching Engine for Professionals Supporting Family Conflict Resolution. *Legal Knowledge and Information Systems*, 416, 337-343. doi: 10.3233/FAIA251607.
- 株式会社 Agoora (2026). 離婚弁護士相談広場. <https://agoora.co.jp/rikon/>, last accessed on June 21, 2026.
- 株式会社 ebookcloud (2026). リーガルワン. <https://legal1.jp/>, last accessed on June 21, 2026.

- 株式会社 WonderSpace (2026). Re:con. <https://wonderspace.co.jp/service/media/recon/>, last accessed on June 21, 2026.
- 株式会社アシロ (2026a). ペンナビ離婚. <https://ricon-pro.com/>, last accessed on June 21, 2026.
- 株式会社アシロ (2026b). ペンナビ AI 法律チャットボット. [https://bennavi.jp/lp\\_line\\_chatbot/](https://bennavi.jp/lp_line_chatbot/), last accessed on June 21, 2026.
- 株式会社朝日新聞社 (2026). 離婚のカタチ. <https://rikon.asahi.com/>, last accessed on June 21, 2026.
- 株式会社リライフテクノロジー (2026). リコ活. <https://ricokatsu.com/>, last accessed on June 21, 2026.
- 日本加除出版株式会社 (2026). 離コンパス. <https://recompass.jp/>, last accessed on June 21, 2026.
- 弁護士ドットコム株式会社 (2026). 弁護士ドットコム. <https://www.bengo4.com/>, last accessed on June 21, 2026.
- ミドルマン株式会社 (2026). Teuchi for 離婚. <https://www.service.teuchi.online/>, last accessed on June 21, 2026.
- 明治大学 (2025). 明治ビジネスチャレンジ. <https://www.meiji.ac.jp/meiji-startup/businesschallenge.html>, last accessed on March 14, 2026.